

## Solution Showcase

# これだけは理解しておきたい IBM Spectrum Data Protection ポートフォリオ

発行: 2017年10月 著者: 主席アナリスト Jason Buffington、上級調査アナリスト Monya Keane

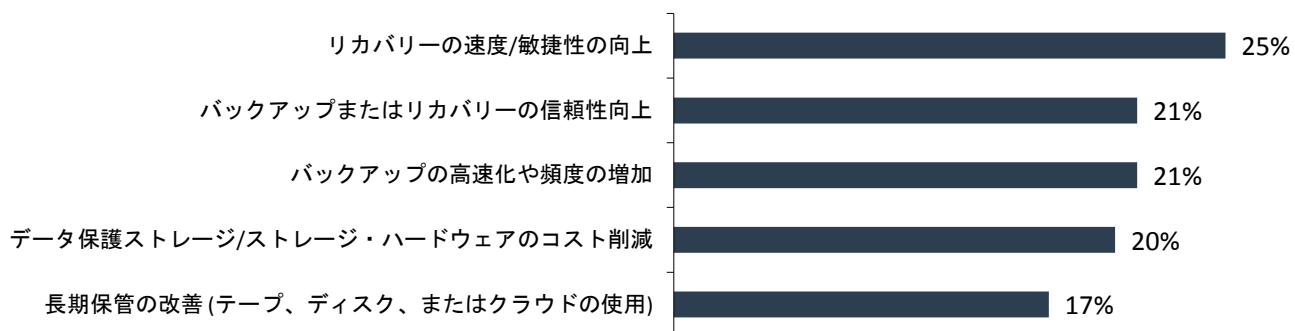
**要約:** IBM Spectrum Protect 製品は、20年以上にわたり主要なITシステムのデータ保護とリカバリーに関して成果を挙げてきました。そのため、IBMの新しいソフトウェア製品 Spectrum Protect Plus と Spectrum Copy Data Management が、「より多機能になった Spectrum Protect」製品だと想像しがちです。しかし、そう考えるのは正しくありません。新しいソフトウェアは、新たな視点からアプローチするスタンドアロン型の製品で、仮想化環境の保護やリカバリーといった困難なIT課題を解決することを目的としています。また、効果的なデータ管理やイネーブルメント(DM&E)によってITによる成果実現を目指しており、「コピー・データ管理」(CDM)と呼ばれることもあります。

### はじめに

ESGの調査によると、シニアITリーダー達は、データ保護戦略を大きく「向上させる」ために、企業全体に関わる重要課題として提議しています(図1を参照)。<sup>1</sup>

図1。データ保護に関するIT責任者からの指示 Top 5

データ保護に関して、IT責任者からの最重要課題は何ですか?  
(回答比率、回答数387、最大3つまで回答)



出典: Enterprise Strategy Group

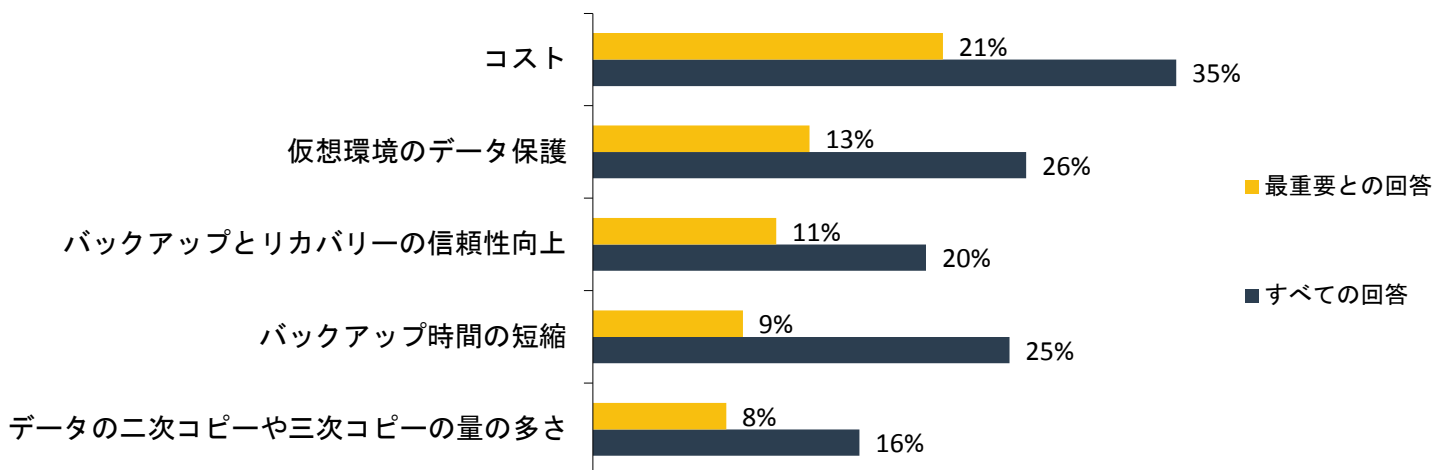
<sup>1</sup>出典: ESG Research Survey 『2017 Trends in Data Protection Modernization』 2016年12月

この「ESG Solution Showcase」は、IBMによって委託された資料であり、ESGのライセンスのもとで配布しています。

とりわけ、データ保護に携わる IT プロフェッショナルは、コストや仮想化環境の保護/リカバリーの課題を管理しながら、同様の改善/削減に関わる行動にも注力しています (図 2 を参照)。<sup>2</sup>

図 2. データ保護プロセスとテクノロジーに関する課題 Top 5

現在のデータ保護プロセスや技術で課題と位置付けているのは、次のうちどれですか? 企業にとって最重要課題と位置付けているのは次のうちどれですか?(回答比率、回答数 387)



出典: Enterprise Strategy Group

### 最新の課題には最新ソリューションが必要

多くの企業は、データセンターのモダナイゼーションに関する 2017 年の重要な投資分野として、サーバー仮想化の推進、データのバックアップ/リカバリーの改善を挙げました。<sup>3</sup>

しかし、図 2 のデータが示すように、仮想化によってデータ保護に関する課題が生まれています。同様に、データ保護や保護以外の戦略を進める中で作成される数多くのコピー・データも、課題を引き起こしています。

リカバリーの柔軟性と敏捷性を高めながらストレージ・コストを削減することへの圧力があまりにも大きいので、これら 2 つの戦略はどうしても互いに相容れないものだという誤った考えを抱きがちになります。コストを削減しながら (またはこれらのコストが認められたビジネス価値を高めながら) リカバリーの柔軟性を改善することは可能であり、企業はまさにこの方向に向かって努力すべきです。

- 仮想化環境のリカバリーと確実性の改善
- より効率的で費用対効果の高いデータ管理とイネーブルメント

### 仮想化環境の復元性と確実性の改善

仮想マシンまたはホストに常駐する一連の VM を適切にバックアップできるかどうかという単純な質問は、もはや意味をなさないでしょう。確かにかつては大変な課題でしたが、VMware、Microsoft、その他のハイパーバイザー・ベンダーが提供するデータ保護 API は、基本的にどのような VM でもバックアップが取得できる信頼性のある手法を提供しています。

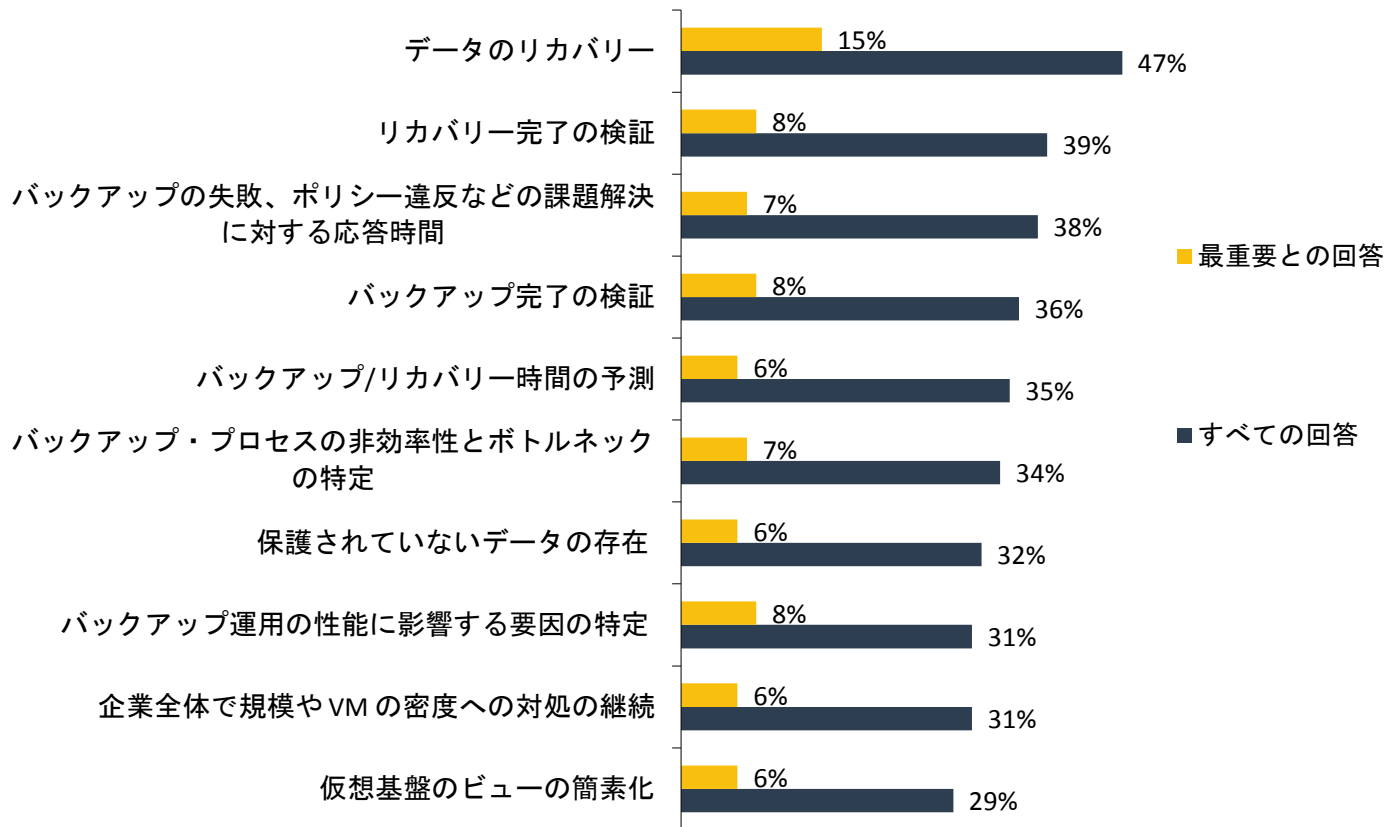
<sup>2</sup> 同上

<sup>3</sup> 出典: ESG Research Report 『2017 IT Spending Intentions Survey』 2017 年 3 月。

差別化の真の領域として残っているのは復元性であり、仮想環境内で包括的な保護を達成することは、依然として企業にとって達成困難な目標です (図3を参照)。<sup>4</sup>

図3. 仮想化サーバー環境の保護に関する課題 Top 10

仮想サーバー環境の保護に関して、課題だと認識しているのは次のうちどれですか?  
 仮想サーバーのデータ保護に関して、最も重要な課題は次のうちどれですか?  
 (回答比率、回答数 400)



出典:Enterprise Strategy Group

図3に示すように、回答者にとって仮想化固有のデータ保護の課題トップは、依然としてデータの復元性です (本当はそのようなことはないはずですが、事実はその通りです)。ただし、頻繁に挙がっているその他の課題も注目に値します。図3で強調されている箇所が示すように、これらは可視性に関連しています。こうした可視性に関する課題の多くは、まだ解消されていません。というのは、一部のデータ保護ソリューションは「仮想化の専門知識」が全くないからです。つまり、仮想環境の真の保護と復元の状態を仮想化管理者、IT運用管理者、その他の利害関係者に示せるだけの仕組みと状況認識に欠けているのです。

このままだと、企業は仮想化のレベルだけをさらに高めることになるでしょう。そのため、影響を受けるITプロフェッショナルは、優れた仕組みが備わり、高度に仮想化された環境の敏捷性を念頭に設計された最新のデータ保護ソリューションを探する必要があります。

<sup>4</sup>出典:ESG Brief 『[Reliable Virtualization Protection Continues to Elude Many Organizations](#)』 2017年10月。

## 効率的で費用対効果の高いデータ管理とイネーブルメント (DM&E)

企業が求める様々な復元成果を効果的に実現する鍵は、二次データのビジネス価値を創出することです。IT部門がその価値を創出すれば、使用中の保護方法の存在もより正当化することができます。図2のデータが示すように、コスト、特にデータのコピーの数が多すぎるために生じるコストは、データ保護責任者が経験している上位課題の1つです。同様にストレージ関連のコスト削減も、IT責任者からの最重要課題になっています(図1を参照)。ITの専門家にとって悩ましい現実、事業部門の利害関係者が要求する復元性と敏捷性のレベルを、必ずしもバックアップだけで満たせるとは限らないことです。

そのため、データ保護管理者は企業のSLAを満たすために、スナップショット、レプリカ、完全/増分/差分バックアップでさらに多くの(実際、より幅広いタイプの)コピーを幾つも作り出してしまうのです。実のところ、スナップショットの部分的および一時的な性質にレプリケーションの柔軟性を組み合わせると、最新のストレージ・アーキテクチャーで包括的に管理され、サポートされた場合には、ストレージを削減できます。しかし、このような統合や補完に関して戦略がない場合、リカバリー目標を満たすには、経営層がストレージ関連コストを削減するように要求してもデータを保護するのに必要なストレージが増加する可能性があります。問題をさらに悪化させるのは、他のITチーム(アプリケーション開発者やIT運用スタッフ)は自身の開発やパッチ管理作業をサポートするために、相変わらず多くのコピーを作成していることです。

ストレージを慎重に削除、圧縮、あるいは最適化し、よりスマートなデータ保護手法を利用しながら、「保護以外のシナリオ」(DevOps、レポート作成、または分析)を実現することで、企業は次のことを達成できます。

- 復元やビジネスの敏捷性による成果の達成
- データ管理と再利用への包括的かつ長期的なアプローチの確立
- IT予算の責任者としての成功

このような状況なので、最新のデータ保護に向けて努力している企業は、保護以外のユース・ケースを実現することで段階的なビジネス価値を創出しながら、包括的な幅広い復元機能を提供するソリューションを探す必要があります。

## IBM の Software Defined Storage ポートフォリオによる包括的な保護

[IBM](#) と Spectrum Protect ソフトウェア (一部のユーザーには旧称 Tivoli Storage Manager - TSM - の名で知られていたソフトウェア) は何十年にもわたって、企業におけるデータ保護をリードする革新者となってきました。しかし、以前から存在している他のバックアップ・ソリューションのように、このソフトウェアが陳腐化したと考えるのは間違いでしょう。中心となる Spectrum Protect 製品は、現代企業のニーズに応えるために進化し続けており、IBM は [IBM Spectrum Copy Data Management](#) (Spectrum CDM) と [IBM Spectrum Protect Plus](#) (SPP) により、そのストレージ・ポートフォリオを拡大したばかりです。

### IBM Spectrum Copy Data Management

Spectrum CDM は IBM Spectrum Data Protection ポートフォリオの新しい製品です。データの保護が目的ではなく、二次データのユース・ケース、たとえば、DevOps、パッチ・テスト、レポート作成/分析などを実現するために設計されています。

今日市販されている他の(ごく僅かではありますが)コピー・データ管理製品と同様に、Spectrum CDM の主な目標は、本物の実働データ・セットへのセキュリティ侵害、妨げ、改ざんを引き起こすことなく、「本番デー

タ」へのアクセスを促進することです。Spectrum CDM を利用すると、事業単位の従業員、コード作成者/開発者、およびさまざまなその他の利害関係者は、そのデータから段階的なビジネス価値を創出できるようになります。また、そのような力を得ることで、最新のデータ保護とリカバリーへのその他の投資が組織全体にとって進めやすくなります。

## IBM Spectrum Protect Plus

SPP は、IT 運用担当者と仮想化管理者を念頭に設計されています。高度に仮想化された環境の保護と迅速な復元を実現するために、SLA を中心に据えたフレームワークを提供し、長年にわたって IBM を支持してきたユーザーも驚くほど優美で現代的なユーザー・インターフェース (図 4 を参照) を搭載しています。

図 4。IBM Spectrum Protect Plus – レポート・ダッシュボード



出典:IBM

また、前述した「仮想化の専門知識」も備えているので、SLA ポリシーが担当の IT 管理者によって定義されると、ビジネス・ニーズに応じて VM またはホストのいずれかに適用されます。

SPP と Spectrum CDM は、中心となる Spectrum Protect ソフトウェア、および他の IBM ストレージ・ポートフォリオと統合して、さらに多様なビジネスの敏捷性を提供します。

## まとめ

非常に多くの企業が直面している課題に対処するには、データ保護はさらなる進化が求められます。しかし興味深いことに、IT 運用責任者が企業のデータ保護戦略の定義と実装に関与を続けることで、たとえ専任のバックアップ管理者がいても、個別にバックアップを取得することはなくなっていくでしょう。

その可能性を念頭におけば、企業は、まず間違いなく IBM Spectrum Protect のような包括的なデータ保護手法に頼りつつ、最も利用されているワークロード向けの手頃で目的に応じて構築できる追加の仕組みや、幅広いデータ管理戦略の一環としてビジネス上の価値を創出する仕組みを探しています。

これらの傾向がどのようになるのかを考えると、長期にわたってデータ保護を革新してきた IBM が、仮想化管理者や IT 責任者に適した製品ポートフォリオを拡充して提供を続けているのは素晴らしいことです。IBM の取り組みは、今日の企業が求めているユース・ケースの実現に向けて、正しいステップを踏んでいます。

商標名はすべて、それぞれ所有する会社に帰属します。本資料に掲載された情報は、The Enterprise Strategy Group (ESG) から得たものです。ESG は信頼できる団体と考えられていますが、ESG の保証が情報を保証するわけではありません。本資料には、ESG の見解が含まれている場合があり、これらの見解は変更されることがあります。本資料の著作権は The Enterprise Strategy Group, Inc. のものです。The Enterprise Strategy Group, Inc. の明確な同意を得ずに、本資料を全部または一部をハードコピー形式、電子などの形式を問わず、受領を許可されていない人に対して複製または再配布することは、米国の著作権法違反となり、民事訴訟および該当する場合は刑事訴追の対象となります。ご質問につきましては、ESG Client Relations (+1-508-482-0188) までご連絡ください。